

5. お台場におけるカキ等の水生生物を用いた水質浄化実験の紹介

いであ株

東京都港湾局では、東京港における「うるおいのある水環境の再生」を目指して、お台場海浜公園で水質改善実験を実施します。

実験では、カキ等による水のろ過能力などを活用して、水生生物などによる水質改善の可能性を調査・検討します。

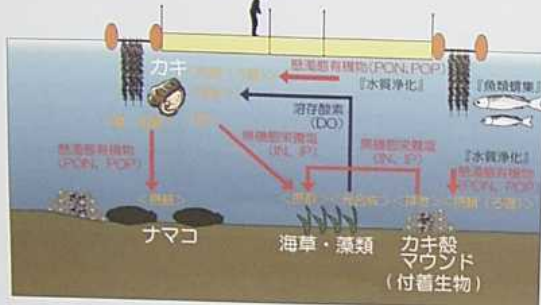
お台場海浜公園における カキの水質浄化実験の概要

東京港における「うるおいのある水環境の再生」を目指して、お台場海浜公園で水質改善実験を実施します。実験では、カキ、ナマコ、海草・藻類（アマモ、アオサ、アカモク）等を用いて、海が本来もつ自然の浄化機能を調査します。



【生物による自然浄化のしくみ】

実験施設における物質循環（イメージ）



【カキ】

海水をろ過しながら、餌をとります。この餌をとる時に、海水は浄化されます。しかし、カキは糞などをするため、海底の汚れが懸念されます。



【ナマコ】

ナマコは泥の中の有機物（カキの糞など）を食べ、海底の泥をきれいしてくれます。夏は泥に潜って休眠し、水温が低下すると活発になります。



【海草・藻類（アマモ、アオサ、アカモク）】

アマモなどの海草・藻類は、光合成によって水中に酸素を供給します。また、水中や海底の窒素やリンを吸収し、水質・底質を浄化します。



【カキ殻】

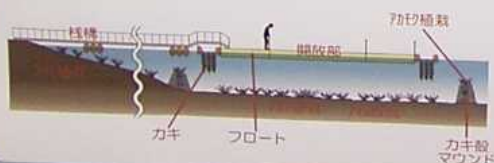
カキ殻を用いたマウンドをつくることによって、生物が付着します。そして、付着した生物が餌をとることによって水質が浄化されます。



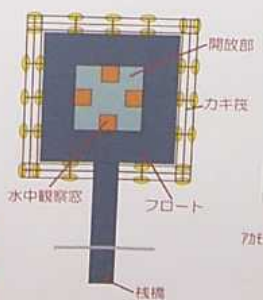
【実験施設の概要】

実験で使用する施設は、縦 10m×横 10m（桟橋 30m）の大きさです。実験施設は海に浮いており、海中にも色々な施設があります。

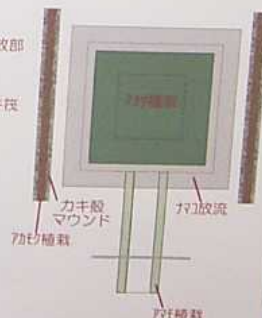
【断面】



【海上部平面】



【海中部平面】



東京都港湾局

<受託者> いであ株式会社、新日本環境調査株式会社

カキの水質浄化実験施設は みんなの手で作られています。

お台場海浜公園におけるカキの水質浄化実験の施設には、「海をきれいにしたい」という多くの方々の思いがつまっています。

8月に行ったイベントでは、そうした方々に協力して頂きました。



8月イベントの様子

カキ連の作成・とりつけ



アマモの植栽



カキ筏の作成・とりつけ



カキ殻
マウンド作成



タッチプール・
カヌー体験教室



カキやアマモを提供していただいた方々

宮城県：高橋さん 岩手県：藤田さん 金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議
 (カキの漁師) (カキの漁師) 神奈川県水産技術センター
 市民ボランティアのみなさん



東京都港湾局